

開倫塾 塾生・保護者各位

No. 2 「靴(くつ)は手でそろえよう」

「開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム」で「学習習慣」を身に着けよう

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 1 : 「靴(くつ)は手でそろえよう」とはどんなことですか。

- A : (1)自分でぬいだ靴はぬぎっ放しにしないで、「手でそろえる」ということです。
 (2)かなり多くの方は、自分でぬいだ靴をそのままぬぎっ放しにしておくようですが、今日からそれはやめましょう。
 (3)自分でぬいだ靴は「手でそろえる」ことを習慣といたしましょう。

Q 2 : なぜですか。

- A : (1)自分でぬいだ靴は、ぬぎっ放しにしないで「自分の手でそろえる」ということは、自分の行動には責任を取るということを意味します。
 (2)自分の行動については最後まで責任を取る「自己責任」という考え方が、勉強を含めあらゆることについて必要です。その手始めが、自分でぬいだ靴は自分の手でそろえることです。
 (3)この他に、「靴を手でそろえる」には、どのような意味があると思いますか。



Q 3 : 「靴を手でそろえる」ということは、自分の足元(あしもと)をよく見るということの意味すると思いますが・・・。

- A : (1)①その通りですね。さすが開倫塾の塾生、よいところに気が付きました。
 ②「靴を手でそろえる」ということは、いつも自分の足元を見ることも意味すると、私も考えます。
 ③「いつも自分の足元を見る」ということは、「いつも自分の足元を見て、自分を振り返る」「自分の行った行為がよかったかどうか反省する」ことを意味します。



(2) 孔子の教えを弟子たちが 499 章にまとめた「論語」の中に、「三省(さんせい)」という章があります。

「孔子の門人の曾子が言った。私は一日の中で何回も何回も、主として次の点について反省する。

- ①一つは、他人のために相談に乗った時、ほんとうに誠意をもって考えてやったか、ということ。
- ②二つは、友達との交際において、信義を尽くさないことはなかっただろうか。
- ③そして、三つには、まだ自分の知識として完全に消化されていない事がらを、他人に教え伝えはしなかっただろうか、と。

* 「論語抄」 史跡足利学校発行 5 ページより引用

(3) ①自分の足元をよく見る。

②注意深く生活し、交通事故や事件・事故に巻き込まれないようにしましょう。

③「注意一秒・けが一生」です。



<おわりに>

- ・きのう(3月2日)の文章は長かったので、今日はここまでといたします。
- ・お体を大切にしてください。

以上

